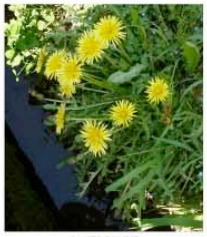


ヤマザトタンポポ

キビシロタンポポ
花色が白からクリーム色、総苞片の縁がたいてい赤い
高知県内での確認はないが、来春発見されるかも！

開かないタンポポ
梼原町の標高高域で確認

クシバタンポポ
葉が櫛の歯状に切れ込み、総苞の基部がぷっくり膨らむ
写真提供：乗藤妙子

ダイホウカンサイタンポポ
総苞片の先の角状突起が発達するものが多い

2009 年予備調査にご協力くださった方々（五十音順、敬称略）

青木佳子、池上亜紀典、池澤舞、石井友理、伊藤温、井上昭子、宇田英一、江口秋美、櫻弘實、
大野清志、岡本達兄、岡本達哉、岡本みつる、沖本宣夫、門田章、金城芳典、北添修、久保慶子、
倉橋謙太郎、栗原妙子、黒岩和男、鴻上泰、小松美穂、近藤亮、齋藤健太、坂本彰、澤良木庄一、
島崎和子、新谷直子、曽井愼一郎、砂川厚子、高井幹夫、高橋眞起、竹内加織、武田阿利紗、
竹本和幸、田城光子、田城松幸、田村青茄、田村満香、堤原健太、友永真弥、
中川智美、中島悠一郎、中澤裕、中平勝也、西岡潤、西川知佐、奴田原仁、横越清一、
半田千恵、平野勝巳、広岡エリカ、福原宏、船谷亮二、細川敏水、堀内和美、
前田陽、松尾逢恵、松田史乃、松本孝、松本匡史、松本忠博、松本多津子、明神南以、
向井有香、村上俊二郎、村中志帆、安岡あさみ、矢野知香、山下幸利、山中優香、
山本愛、山脇千紘、吉永裕子、依光忠宏、四万十高校

【お問い合わせ】
高知県立 牧野植物園
The Kochi Prefectural Makino Botanical Garden
〒781-8125 高知市五台山 4200-6
TEL:088-882-2601/FAX:088-882-8635
http://www.makino.or.jp/
saussure@makino.or.jp 藤川和美まで

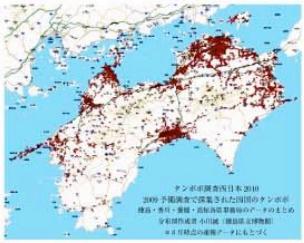
タンポポ調査西日本 2010 調査 高知県実行委員会ニュースレター

写真提供：全農教　高井幹夫

タンポポ調査とは

誰もがよく知っているタンポポ。この「タンポポ」を自然環境の指標として身近な自然の現状を市民の皆さんとともに調べる活動が、2009 年春から 2 カ年計画で、西日本（福井・滋賀・三重・京都・奈良・和歌山・大阪・兵庫・鳥根・鳥取・岡山・広島・山口・徳島・香川・愛媛・高知・福岡の各 18 府県）で開始されました。

タンポポにはもともと日本に生えていた在来種タンポポと外国からやってきた外来種タンポポ（セイヨウタンポポとアカミタンポポ）があります。ヨーロッパ原産の外来種タンポポは、都市化とともに勢力を拡大しているとされ、造成地など開発された場所に多く分布しています。一方、在来種タンポポは緩やかな人間の暮らしのある地域、田んぼのあぜや原っぱなどの里山に生えています。このような地域が開発されていくと、在来種タンポポの生育していた場所に外来種タンポポが進入し、分布が置き換わります。従って、ある地域からタンポポを集めて外来種か在来種を区別し、それぞれの分布を見ることにより、身近な自然環境の概要を知ることができるのです。



そこで、高知県でも西日本の各県と連携し、県内全域からタンポポを収集し、タンポポの分布を示す「タンポポ地図」の作成を目標に、2009 予備調査を実施しました。

高知県のタンポポ

タンポポ調査西日本・高知県 2009 年予備調査の速報結果をご報告します。今年度は予備調査として、2009 年 3 月～7 月中旬までタンポポを収集しました。集められたタンポポは 1108 タンポポで、76 名が調査に参加されました。現在まで、高知県に生育するタンポポで確認されたのは、表 1 のとおりです。集められたタンポポの種ごとの割合を円グラフで示します。

2009 予備調査　採集されたタンポポ属

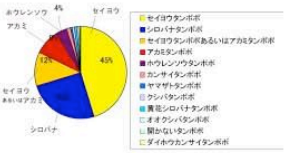


表 1　高知県内市町村別サンプル（タネのみで同定不能なものやタンポポ以外のサンプルを除く）

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	
番号	種名	土佐清水市	宿毛市	四万十市	黒潮町	四万十町	梼原町	津野町	仁淀川町	佐川町	須崎市	土佐市	日高村	いの町	高知市	南国市	土佐町	本山町	大豊町	香美市	香南市	奈良村	安芸市	馬路村	安田町	北川村	田野町	室戸市	合計
1	カンサイタンポポ												1		1	11				1									14
2	ダイホウカンサイタンポポ						1	3									3												4
3	シロバナタンポポ	1				6		2	1	1	4	4	3	3	129	63		2		13	23		4		1			8	262
4	黄花シロバナタンポポ（シロバナタンポポの黄花）					1					1				3	2				1									8
5	クシバタンポポ																		1	4	3								8
6	ヤマザトタンポポ						2	6																					8
7	開かないタンポポ（ツクシタンポポ）						4																						4
8	オオクシバタンポポ（長葉）															9													9
9	ホウレンソウタンポポ（仮称）		3					2	1				1	1		22	2		1	2		3		1					40
10	セイヨウタンポポ	2	7	5	1	18	9	13	5	1		6	3	26	278	193	6	7	6	21	23	1	3				2	3	474
11	アカミタンポポ		1				1			1	1		1		18	16				1	7		2						53
12	セイヨウタンポポあるいはアカミタンポポ		2			4	2			1	1		1	3	63	28	2	2		7	21			1		2		2	127
	合計	3	13	5	1	21	19	26	8	4	6	12	10	29	492	352	8	12	9	48	81	1	10	1	1	2	2	12	1048

在来タンポポのうち黄花のタンポポでは、カンサイタンポポは南国市のある地域のみに多く、クシバタンポポが物部川周辺地域、大豊町と夜須町に、ヤマザトタンポポが梼原町と津野町に生育することが確認されました。黄花で在来のタンポポは、高知県では分布が限られていることも分かりました。カンサイタンポポ・クシバタンポポ・ヤマザトタンポポは、高知県では絶滅危惧種（絶滅の恐れがある種）とされています（高知県レッドデータブック 2000）。総苞片が反り返らない黄花のタンポポを見つけたら、周りをよく見て個体数も数えてみてください。

梼原町と津野町から採集され、従来ではツクシタンポポと同定された個体は、「ダイホウカンサイタンポポ」と記載された種である可能性が高く、本来のツクシタンポポと同一のものか疑問視されています。一方、梼原町の標高の高い地域で採集された開かないタンポポ（昼になってもほとんど花が開かない）が、本来のツクシタンポポである可能性があります。この実体を明らかにするため、ツクシタンポポは 4 倍体で、ダイホウカンサイタンポポは 2 倍体なので、染色体数の確認を始めました。これらツクシタンポポ、ダイホウカンサイタンポポ、開かないタンポポについては、さらに詳細な調査と観察を行い実体を明らかにしていく予定です。

県内で見られる在来のタンポポには、ほかにシロバナタンポポがあります。本種は、関東地方以西に分布するため（関東ではまれ）、東日本に住む人が春先の高知を訪れると、「あれっ、タンポポが白い！」と驚かれる人がいます。高知県内では普通の植物も、所変われば珍しい植物の一つですね。シロバナタンポポのなかには黄花のものもありました。「キバナノシロバナタンポポ」とおかしな名前が付きそうです。

外来種タンポポはセイヨウタンポポとアカミタンポポが確認されました。外来種としたもので、総苞片の反り返り具合を見てみると、完全に反り返るタイプは四国カルストなどにその典型があります。県内ではかなりの頻度で総苞外片の状態が、一部が内片から離れ、斜め上向きになっていたり、横向きに開いていたり、大きく斜め下に向いて開いていたりさまざまであることがわかりました。このような、総苞片の状態をもつタンポポは、最近になって明らかにされた、在来種と外来種の雑種の可能性があります。

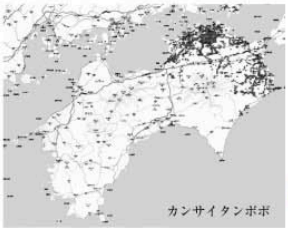
総苞外片の状態

＊黄花のタンポポ幼うち、1 タイプの総苞片は在来種で、5 タイプの総苞片は外来種タンポポといわれていました。
よく見てみると総苞片の反り返りの程度はさまざまで、これらは雑種タンポポの可能性もあります。

高知県植物誌で、「タンポポ属の一種」としたものを「ホウレンソウタンポポ（仮称）」として区別しました。また、在来種のクシバタンポポに総苞の形が類似しているが、より大型で櫛の歯状に葉が切れ込まないもの「オオクシバタンポポ（仮称）」がありました。これらは、新たに開発された土地や街路樹の植え込みなど土の移入があった場所で確認されています。このように、まだまだ正体不明のタンポポもあります。

ところでタンポポは、押し葉標本のみで正確な同定をすることが非常に難しい植物。生きた個体で総苞片の状態や痩果の色を観察すること、生育地の状況を把握することが重要です。

身近な植物「タンポポ」も、よく見てみるとさまざまな形があり、まだまだ知られていない不思議がいっぱいです。



左上図は、四国のカンサイタンポポの分布、
下図は、クシバタンポポの分布。いずれも
タンポポ調査西日本 2010 予備調査で採集された、
徳島・香川・愛媛・高知各県事務局の速報結果データにもとづく（8 月時点）。カンサイタンポポは、
香川・徳島には数多く生育するが、高知・愛媛には
少ない。クシバタンポポは県内での確認は中央から
東部のみである。
分布図作成者 小川誠（徳島県立博物館）

本調査 2010 年への取り組み

2009 年予備調査では調査組織体制づくりが遅れましたが、2009 年 5 月中旬に高知県タンポポ調査実行委員会が起ちあげられ、高知県植物誌編纂事業で特定区調査ほかリーダーの方々に呼びかけを行い、委員会でご意見を賜りました。2010 年本調査では、これら意見を集約し、2009 年予備調査以上の活動を実施したいと考えております。今回の報告は速報結果です。西日本調査全域の結果とあわせ、改めて予備調査報告書を作成し（2009 年 12 月を予定）ご協力いただきました皆様へ報告します。

「タンポポ調査 2010・高知県実行委員会」では、多くの市民参加による正確なタンポポの分布の把握を目的に、2010 年 2 月中旬から開始予定です。より多くの市民に身近な自然環境を把握するための動機付けや環境破壊の実態を伝える手段としても活用されることが期待できるものだと考えられます。この取り組みは、高知県全域を網羅した初めてのタンポポ調査となるため、今後の環境破壊の動態を知るための基礎資料となることでしょう。2010 年の本調査に向けて、皆様のご協力をお願い申し上げます。

高知県タンポポ調査実行委員会
委員長　山岡和興
事務局：藤川和美・坂本彰・和食敦子